

演劇大学 徳島 『長編戯曲を書いてみよう』

『バイバイ淀川マート』

■作（作品登場順）

アキヤマ

岡田 千絵

川人 知恵子

中野 みつ子

うえちゃん

坂東 幸奈

松浦 友

平尾 圭子

中田 愛実

■脚色

土田英生

* * *

1 AM 10:00

現実では徳島市にある藍場浜公園の場所にスーパー「淀川マート
徳島支店」がある……という設定。

大阪市淀川区に本社があり、徳島にはここしかないようだ。
進出して二年。

今日で閉店が決まっている。

新町川沿いには従業員たちが休憩する為のベンチがある。
そのベンチで1日のそれぞれの時間に交わされる会話。
この作品はそのスケッチだ。

ベンチには親子だと思われる二人が座っている。

斎藤娘 もう、いつも無理ばかり言うんだから。

斎藤母 しょうがないじゃない。

斎藤娘 そうだけど。

斎藤母 まあそう怒らないで。

斎藤娘 けどお母さん調子悪いのに。

斎藤母 いいわよ。お父さん食べたいうって言うんだから。

斎藤娘 そんなに美味しい？徳島ロール。普通の太巻きじゃない。

斎藤母 お父さん、他とは違うって言ってたわよ。

斎藤娘 食べ物に対して妙なこだわりあるよね。

斎藤母 いつもおんなじ味だったら飽きるんでしょ。

斎藤娘 贅沢じゃない？それに最近要求がますますひどくなってる気がする。

斎藤母 えっまた電話あったの？

斎藤娘 そう。

斎藤母 裕美(ひろみ)の仕事中は電話するなってこの前あれだけ言ったのに。

斎藤娘 言うだけ無駄だって。お父さん聞いてないし。

斎藤母 いつ電話かかってきたの？

斎藤娘 昨日の会議中。何かと思った。

斎藤母 今度はなんだった？

斎藤娘 アイス。しかもハーゲンダッツ。高い奴。

斎藤母 あーそれはお母さん無理だわ。自転車だし。

斎藤娘 車だって溶けるよ。それに食べた感想。

斎藤母 なんて？

斎藤娘 あとくちが残るなあ。わしはやっぱロッテの爽(さや)がいいなあつ

て。だったら先に言えって。

斎藤母 ごめんねー。あとでアイス代返すわ。

斎藤娘 まあお父さんの気持ちもわからなくはないけど。これだけ暑いと。

斎藤母 まだ10時なのね。

斎藤娘 もうちよつとここで休憩して行こうよ。

斎藤母 スーパーの人に怒られない？一応ここ従業員用の休憩所でしょ。

斎藤娘 足痛いでしょ？休まない無理だって。ここ駐車場から入口まで遠す

ぎ。

斎藤母 いつもだったら自転車で来るんだけど。

斎藤娘 捻挫してるんだからしょうがないって。お母さんちゃんとお父さんに

言った？

斎藤母 言ったわよ。でもどうしても食べたいから買ってきてくれた。

斎藤娘 お父さん、あれが食べたいこれが食べたいって言いすぎ。

斎藤母 暇だからね。食べ物ぐらいいしか楽しみがないんでしょ。

斎藤娘 3食ちゃんと出るんでしょ？毎日あれこれ持って行く必要がある？

斎藤母 いいじゃない。徳島ロールは今日で最後なんだから。

斎藤娘 それはそうだけど。

斎藤母 今のうちに食べたいって言うてるもんだべさせてあげないと。悔いが残ったら辛いのはこっちよ。

斎藤娘 そうかなあ。

斎藤母 そういふもんよ。

斎藤娘 今でどれぐらいだっけ。

斎藤母 ちようど一年ぐらいじゃない。

斎藤娘 余命半年じゃなかったっけ。

斎藤母 そんな事言ってたわねー。

斎藤娘 あんときはびっくりしたね。

斎藤母 突然倒れたからね。

斎藤娘 最初は心配したけど、お父さん入院してからも相変わらずだし。

斎藤母 昔から美味しいもの好きだったからね。

斎藤娘 徳島ロール、今日で食べれなくなっちゃうね。

斎藤母 そうね……。

斎藤娘 お父さんとどっちが早いかなんて言ってたけど、こっちのスーパーのほう及早かったね。

斎藤母 ね。

斎藤娘 食い意地張ってるからお父さん意外にしぶといんじゃない。

斎藤母 でもいつまでもは無理よ。

斎藤娘 うん……。

川を見つめる二人。

斎藤母 お父さん待ってるからそろそろ行こう。
斎藤娘 回診終わったぐらいだね。

二人ベンチを離れる。

* * *

2 AM 11:00

ベンチ回りを掃除しているシズ子。
そこに同僚の岡崎がやってくる。

岡崎 やっぱリエロテンでかすぎたな。

シズ子 なにか？

岡崎 声よ声。

シズ子 あー。

岡崎 あれはないわな。

シズ子 最後のに。店長挨拶。

岡崎 うん。あの笑い方しながらのコメントはあかんな。

シズ子 最後にガッツポーズまでしよったけんな。

岡崎 グーはないわー。

シズ子 ないなー。それに女にだらしないけん。いろんな人の噂も聞いているし。なんであんなに触ってくるんだろな？

岡崎 ロテンって呼ばれとっただけのことはあるわ。私もすれ違いざまの肩モミモミ気になってたんよ。

シズ子 モミモミ？

岡崎 うん。あのモミモミされるときの左右の力加減が違って気になって気になって。

シズ子 ほうやな。気持ち悪い笑い方しなごらだしなー。

岡崎 あれはあかんな。

シズ子 うん。

岡崎 完全セクハラでアウトやで。

シズ子 アウトやな。

岡崎 アウトアウト。……でも昔、あの気持ち悪い笑い方に救われたこともあるんよ。

シズ子 えー。あの気持ち悪い笑い方に？

岡崎 うん。

シズ子 あの笑い方で救われたて……ええ？ あんたも物好きやなー？

岡崎 2年前、和ませてくれたんよ。

シズ子 ほうなん？

岡崎 うん。徳島に来て全くなじめてなかった私にあの笑い方で一緒に笑ってくれて感謝しかなかったわ。

シズ子 エロテン喜ぶで。みんなに嫌われてるのに救われた人おったなんて聞いたら。

岡崎 同郷ってのが大きいのかも。

シズ子 あ、あんたも大阪か。

岡崎 うん。声の大きさは苦手やけど。

シズ子 確かにあの急に大きい声はあかんわ。

岡崎 だろ？ けど、今日でエロテンの声聞く人も終わりなんてまだ信じれ

ん。

シズ子 なんでよ？

岡崎 だってシズ子さんにも明日から会えんくなるでー

シズ子 私に？

岡崎 うん。

シズ子 私はいつでも会えるでえ。

岡崎 会えるかな？

シズ子 まあ店なかったら市内までくることないけんな。

岡崎 だろー？

しばらく新町川をみつめる。

シズ子 (ふと左を見て) あれエロテン違う？

岡崎 どこに？

シズ子 春日橋の上よ。なんであんなところに？

岡崎 ほんまや。さみしそやな。

シズ子 ほうやな。

岡崎 俺、なんでここにおるんやろ？とかでないん？

シズ子 うん。徳島にんで店進出したんやろって後悔してるんよきつと。

岡崎 それはエロテンが、だらしなくて社長に泣く泣く出店させてもらったから仕方なでー。

シズ子 ほうなん？知らんかった！、社長に泣きついたんで？

岡崎 知らんかったん？結構有名な話やで。

シズ子 へー？あかんでえーほれは。

岡崎 ほうやろ？それで2年で閉店では社長に頭が上がりやろうなー。

シズ子 確かに。これでますます嫁さんにも頭が上がりやろ。

岡崎 こっちで羽伸ばしすぎたんやなー。かわいそうに。

シズ子 ほうやな。あつそや、最後にミニ遊山箱買つところかな。

岡崎 そういや私も買ったことないわ。

シズ子 おいしそやけど1500円はなかなか買えんなー。

岡崎 最後やもんな。

シズ子 …惣菜はおいしいのにな。

岡崎 はずれなかったのにな。

シズ子 うん。

岡崎 徳島の人は新しいもん好きやからどんどん新しい変化せんとみんなよそ行くわ。

シズ子 とくしまロールだけではあかんわなー。
岡崎 だろ？

二人はエロテンを見ながら、

シズ子 …全部エロテンが悪いんよ。

* * *

3 PM 12:00

大川（65歳）が弁当を食べている。
裏口のドアが開いて、吉野（69歳）が弁当を持って出てくる。

吉野 いやー、暑いなあ。
大川 うん、いつになったら涼しくなるんやろなあ。

吉野、弁当を開けて食べ始める。ふと大川の弁当を見て、

吉野 あれ？大川さん、いつも手作り弁当なのに、それ、
大川 ああ、最後の日くらい淀川マートの弁当食べてもいいかなって。
吉野 ふーん。

大川一口食べて、

大川 ヒヤー！オイシー！何これ（大声で）
吉野 ちよっとー びっくりするやない、弁当くらいで大きい声出さんとい
よ、

大川 ごめんごめん、・・・実はな、私、店の総菜、今日が初めてなんよ。
吉野 えーっ！（大声で立ち上がる）

大川 どっちが大声よ。
吉野 嘘やろ、2年も勤めとんよ。700日来とんよ、ここへ。いやいやいや
（首を振りながら信じられない、といった素振り）

大川 ほんまなんよ。信じられんと思うけど。
吉野 何でまた。

大川 姑よ。料理は必ず嫁が作るもの、って思いこんどるんよ、あの時代の人
は。
吉野 へえ。
大川 よそで買ってきたことがバレたらうるさいから、ずーっと手抜きできな
んだ。しんどかった〜！
吉野 今の時代、まだそんな人がいたとは。ご苦労さん。
大川 それにしても おいしいなあ、これ。この卵の味、マネできんわ！
吉野 当り前よ。「うちの店は総菜部でもっとる」って、総菜部長がいつも自
慢してるやない。
大川 あゝ悔しい！これが最初で最後やなんて。
吉野 ついでに、こうやって、あんたと二人で食べるんも最後やなあ。
大川 ・・・・(うなづく)
吉野 今まで気がつかないんだけど、贅沢やったんや。
大川 え？
吉野 こんなきれいな景色見ながら、毎日昼ご飯食べてたんよ。
大川 ほんまやなあ。私も、このベンチに座ってる時だけがほつとできる時間
やった。ぼーっと水面眺めてたら、腹立っててもいつの間にか忘れてた
りして。
吉野 新町川と眉山にお礼でも言いますか。
大川 ハハハ、ほな(立ち上がる。吉野もつられて立ち上がる)
二人 ありがとうございます。(冗談めかしてお辞儀をし、顔を見合わせて
大笑い)
吉野 ほなけんども、こんなことになるとは夢にも思わなんだ。たった2年よ
う。
大川 2年前、ここに就職が決まった時は、天の助け、と思ったよな。
吉野 うん、アラセブンティの就職口なんかないもんな。
大川 は？アラ何？
吉野 アラセブンティ。およそ70、アラフォーのあれよ。
大川 ああ(頷いて)。もうややこしいこと言わんといて。
吉野 あの時は、エロテンが神か仏に見えたわ。
大川 どっちかっていうと、仏さんかな、あの顔。エロ仏。
吉野 コラ！仏さんのバチが当たるよ。
二人 大笑い

ふたり、ふと我に返って。

吉野 大川さん、これからどうするん？

大川 どうするもくそも、働かなんたら生きていけんやない。

吉野 私ね、ほんまは、悩んどったんよ。

大川 え？何を？

吉野 このままレジやっていけるか、自信がなくて。

大川 どういうこと。吉野さん、ちゃんと仕事してたやない。

吉野 もうくパニックなんよ。

大川 ええっ？

吉野、 チャージとかカード払いとか、もうついていけんわ！

大川 はあ？？？

吉野 機械はどんどんお利口になっていくのに私の頭はアホになる一方、なに今度は訳の分からん消費税やろ。何が10%やら8%やら、いい加減にしろー！

大川 えー！えー！、ほんなら、あんた、この店が潰れてよかったやない。

吉野 いやいやいや、そんな単純な話やない。私やって働かな生きていけん

よ。あのちよつと聞くけど、大川さんは、貯金しとる？

大川 えっ、突然何よ。答えないかん？

吉野 貯金、2千万円ある？

大川 はあ！？2千万？何のこっちゃ。あるわけないやろ！スーパーのレジがどうやってそんな大金・・・

吉野 この間言よつたやろ。老後は年金が足りなくなるから2千万の自己資金が必要って。

大川 ああ、あれね。

吉野 あれってほんまやろか？ほんまやったら私生きていけんわ。

大川 慌てて政府が火消しに回ってたよね。案外ほんまなんやない？

吉野 ようそんなに落ち着いていられるなあ。

大川 落ち着いてるわけないやろ。路頭に迷った老いた女、明日は野となれ山となれ（芝居じみて）

吉野 大川さんはまだ若いやないの。私より4歳も。

大川 それ、若いうちに入らんけん。

吉野 ・・・・。あくあ、明日からどないしよう。

二人、ぼーっと水面を眺めている。

大川 あーっ（突然立ち上がって叫ぶ）

吉野 ど、ど、どしたん。

大川 どないしよう。神が降りて来た！いや、仏かも。

吉野 どっちでもいいけん、何なんよ。

大川 総菜よ、総菜。

吉野 総菜がどしたん？

大川 あんな美味しい総菜、このままで終わらすのもったいないやない。

吉野 それで？

大川 店を出すんよ、弁当屋。

吉野 ええっ？！

大川 店の名前は淀川弁当。そしたら淀川マートのあの美味しかった総菜って分かってもらえるじゃない。

吉野 誰が店を出すんよ。

大川 私らに決まってる。もちろん、店長は総菜部長の南部さん。

吉野、あっけにとられている。

大川 さ、南部さんのところへ行こ！

大川 走って建物の中へ。

吉野 ……。

* * *

4 PM 14:00

南部惣菜部部长、携帯で話しながらやってくる。

南部 はい…はい、ありがとうございます。それで勤務地は？（間）ああ、そうですか。出社は十月一日の午前九時ですね。

経理部員の富田がポカリスエットを片手に来る。

南部 それでは、よろしく願いいたします。

と、電話を切る。

富田 良かったな。

南部 え？

富田 その電話。さすがやあ。

南部 ああ。

富田 私なんか転職活動する暇もないわ。

南部 毎日遅いんだろ？

富田 うん。この一ヶ月は店出るのが九時、十時。日付変わったときもあったわ。

南部 残務整理で大変やろな。

富田 そう。

南部 経理部が一番きついとおもうわ。そもそもあのエロテンが経営者やけん、初めから見えとったんよ。

富田 (笑って) ナンチャンは、よう、言い合いしとったもんな。ハラハラしたわ。

南部 ほなつて、従業員の採用からしても、若いきれい目のお姉さんが面接に来たら、あいさつできんでも挙動不審でも、即採用。

富田 そうじゃ、そうじゃ。あの子はひどかったな。ヌーと来てすーつと帰るけん、シフトが組めんかったわ。

南部 エロテンは在庫管理せないかんのに、可愛い営業の女の子がこのシャンプー置いて、とか言ってきたら箱買いして、売れ筋のレオンのシャンプーは品切れ。

富田 けど、あんたの言うこと最初はよう聞いてくれとったで。うまいもん、名物になるもん、作ってくれて、予算をようけ取ってくれたよ。

南部 まあ、お陰で、徳島ロールやミニ遊山箱ができて、よう、売れた。

富田 今もナンバー1の売り上げでえ。ナンチャンは体、ハツとったもんな。ハツハハハハハ(大笑い)

南部 いつまで笑うんよ。

富田 あの頃、渡辺直美くらい、太つとただろ？もうちよつと、砂糖、いれろか、味醂にしよか、はたまた、日本酒を一滴とか、蜂蜜をとかって味見を繰り返して。

南部 もう、大げさなんよ。富ちゃんは。

富田 確かに経理部といたしましては、物菜部の断トツの黒字のお陰で焼け石に水、って感じだったけど、息絶え絶えでここまで来たんよな。

南部 実は、さっきな、「この徳島ロールが、明日から食べれんと思ったら寂しいわ」って、よう買いに来てくれとったお爺さんが言うてくれたん

よ。そしたら、そばにおったおばちゃんらもようけ集まってきた……せこかったわ。

富田 だろうな。私も娘に頼まれて、悪いけど、取り置きさせてもろたん、持ってかえつたらめっちゃ喜ぶもんな。あの太巻きの中のウナギと卵焼きが絶妙って。

南部 ありがとう。けど、お互い、今後の事、考えなあかなあ。

富田 えー、なんちゃんは決まったんだろ？

南部 うーん、なあ……あいな（言いよどむ）

南部に電話がかかってくる。

南部 はい、はい、ああ、川内支店ですか？はい……実は、申し訳ございません。事情が変わりましてこのお話は辞退させていただきます。……ほんとに勝手を申してすみません。お手数をおかけしました。

富田 どうしたん？

南部 私な、まだ、何も準備してないんやけどな、起業、しようって。

富田 起業？何言よん。ええとこ、断って！

南部 うん。

富田 えー、どないしたん。

南部 私、お弁当屋さんをする。大川さんから言われて。

富田 何言ってるん。採算とれるん？たちまち、どこでやるん？

南部 自宅で、自分の台所で、自分ができる範囲で。

富田 （間）やめとき。ぜったい大赤字になる。なんちゃんほどの腕と頭があったら、どこでも喜んで雇ってくれるだろ？勤めとう方が気楽やし、老後のお金も貯めなあかなくていよったで。

南部 そら、老後は心配。けど、今、一人暮らしの老人や料理するんが難しいになった人がようけおるだろ？……そんな人が必要とするものを作りたいって、ずっと前から思うとったんよ。

富田 そんなん、国会議員や知事とかの選挙に出る人がいようこと。そんな人やってよう作ってないでえ。

南部 そんな人らは本気で思っていないけん。

富田 なんぼ本気でも、一個人がするんはムリよ、絶対無理。

南部 ほら、私やって、わかってるわよ。ほなけん、最初は一〇人の人が喜んでくれたらいんよ。それから二〇人、三〇人って……

富田 そんなん、いくら利益がでるんよ。骨折り損のくたびれ儲けや。

南部 うわ、懐かしい言葉、骨折り損のくたびれ儲けって。

富田 なに、茶化してるん。な、考え直し、な。
南部 まあ、何でもやってみなわからんし…まだ、若いし、ほな、仕事に戻るわ。最後のお勤めせな、じゃあね！
富田 うん。

店に戻って行く南部。

富田 あのな、税金のことは富ちゃんにまかすんじよ！

* * *

5 AM 15:00

休憩する寺田（精肉部のリーダー）。
そこに現れる精肉部の従業員小野。

小野 まだここにおったんですか寺田さん。
寺田 おー…。
小野 いつまで休憩してるんですか？
寺田 ええやる別に…。
小野 仕事中ですよ。
寺田 もうほとんどすることないやろ。
小野 惣菜部の方から来てますよ。
寺田 ああ、調理用の肉か。
小野 はよ寄越せてって催促されてますよー。
寺田 最終日やってのによおやるなあ。
小野 仕事ですからねえ。
寺田 もう夜用なんてどうでもええやろ。
小野 そういうとこですよー寺田さん。
寺田 お？なんや説教か小野。
小野 そんなじゃないですよ。
寺田 次の仕事が決まってるからって調子乗んなよ。
小野 え、寺田さんまだ次決まってるんですか？
寺田 なんか文句あるんか？
小野 いえ別に…。

寺田 だいたいなあ…ここ来てまだ〇年やで…。
小野 はあ、短かったですね。
寺田 前のとこから引き抜かれて来たってのにたったの〇年って…。
小野 技術はありますからね寺田さん。
寺田 つまり最後の就活は前の職場やで？
小野 まあそういうことになりませうね。
寺田 もう仕事の探し方なんて覚えてないっちゅーねん。
小野 でも無職じゃ困るでしょ。
寺田 じゃあ小野が行くとこ連れてってや。
小野 え…いやそれはちよつと…。
寺田 はあ…ええなあエロテンは。逆玉やもんなあ逆玉。
小野 あんなセクハラ店長でも結婚できるのすごいですよね。
寺田 ほんまそれ！俺のほうがよくぼどええ男やんなあ！
小野 どっこいどっこいかな（ボソツと）
寺田 ん？
小野 まあ自分の職場は紹介できないですけど、仕事を探す手伝いぐらいならしてもいいですよ。
寺田 ほんまか？！面接練習も頼む！
小野 …結構ガツツリですね。
寺田 頼むよ小野おとおほんまは割と焦ってんねええん！
小野 あーはいはいわかりましたから…。
寺田 ありがとうございます！じゃあとありあえず「NE」教えて！
小野 はい？
寺田 え？知らんよな「NE」…。
小野 あー…そういえばそうでしたかね。
寺田 プライベートで会ったことないしな。
小野 あっ…。
寺田 どした？
小野 ってことは、これからプライベートで会うことになるんですね…。
寺田 なんてちよつと嫌そうやねん。
小野 上司とプライベートで会うのとか普通に嫌じゃないですか？
寺田 そういふもんか？
小野 まあ寺田さんはその辺凶太そうですもんね。
寺田 あ？
小野 褒め言葉ですよ。
寺田 どの辺がやねん。

小野 そんなことより早く戻ってお肉用意しないと、惣菜部の人カンカンですよ。

寺田 へいへい…たくしゃあないなあ…。

寺田、小野持ち場に戻る。

* * *

6 PM 16:00

角山、助澤、お互い背を向け座っている。

角山タバコを吸い始める。

助澤がそれをチラリと見て顔をしかめる。

角山 ふう…。

助澤 ……。

角山 お前と顔合せるんも、今日で最後やな。

助澤 清々するわ。

角山 ……なあ、最後やし、面白いこと教えてやるか。

助澤 ……。

角山 あんたの担当してる、食品コーナーのな。

助澤 ……。

角山 天井見上げて、隅の、あの出っ張ってるところあるやろ。

助澤 ……。

角山 実はな、あそこにな。

助澤 ……。

角山 ……投げ入れてやったんよ。

助澤 何を？

角山 鍵。

助澤 ……何の？

角山 車の。

助澤 ……誰の？

角山 店長の。

助澤 ……は？

角山 は？

助澤 はああ？

助澤、角山の方へ体を向ける。

角山 …なんやの。

助澤 なんやのってあんた、いい歳して何してんの。

角山 何って、腹いせやけど。

助澤 はあ？…信じられん。

角山 な…あんたやって、店長のこと嫌ってたやろ。

助澤 それとこれとは話が別や。

角山 大体、あんたら売り場の者が店長甘やかすからやろ。

助澤 はあ？

角山 調子乗って、若い子にセクハラして、仕事もできんし。

助澤 まあ…。

角山 在庫の管理もようできんで、人に押し付けるし。

助澤 …ほうやけど。

角山 掃除もせんし、片付けも手伝わんし。

助澤 …うん。

角山 隅にホコリ溜まりっぱなしやで、汚いやろ。ほれにな…。

助澤 ほんなに思ってるんやったら、あんたが言えばええやないの。

角山 はあ？なんでえ。

助澤 衛生管理者なんやろ。私より言いやすいやろ。

角山 年上に押し付けんといて。こういうのはあんたらの仕事やろ。

助澤 あんたはただ、パートに戻されんのが怖かっただけやろ。

角山 ……なあ。

助澤 何？

角山 鍵このままで帰らへん？

助澤 はあ？

角山 今日で最後やで。

助澤 ほれはほうやけど。

角山 なあ、バレへんって。

助澤 こっちは連帯責任取らされるんやで。

角山 こっそり帰ろうや。

助澤 ……。

角山 バレへんって。

助澤 ……。バレへんかな。

角山 バレへん、バレへん。

角山、助澤、顔を見合わせて笑う。

助澤 ……あ。

角山 何？

助澤 ……カメラ。

角山 は？

助澤 監視カメラ。

角山 ……あ。

助澤 バレんで、すぐに。

角山 ……。

助澤 バレんで。

角山 ……。

助澤 ……。

角山、助澤、立ちあがる。

そして顔を見合わせ、

角山 脚立……。

助澤 ……倉庫にあるで。

二人は急いで戻って行く。

* * *

7 PM 17:00

スーツを着た澤井非常務（常務と言っても大企業だと課長的な感じ）が下手側に座り、飯島なお（派遣の経理事務社員）が上手側に座っている。

澤井非常務の左手が飯島なおの肩にかかっている。右手はこの二年間の経営状況に関するファイルケースを持っている。

飯島 やめてください。

澤井 へ？

左肩を動かす。

飯島 手。

澤井 はいはい。

澤井は手を外す。

澤井 君は可愛いなーしかし・・・。

澤井はいやらしい顔をする。

飯島 失礼します。

飯島は立ち上がろうとする。膝を押さえて座らせる澤井、言葉を探す。

澤井 あー、・・・・・・・・。

顔を露骨に逸らす飯島。

澤井 あの、・・・・、そうそう、店長ってどんな感じ？

飯島 え？あ、ああ。

澤井 勤務評定しんとあかんからね・・・・。

飯島 はあ。

澤井 悪口大歓迎！

飯島 その・・・・。

澤井 大丈夫だよ。俺、本社の人間だから・・・・。

飯島の怯んだ隙に再び肩に手を置く。

飯島 はい、・・・・・・・・。

澤井 パワハラとかあいつがしてても、俺がちやーんと守ってやるから。

飯島 はあ、・・・・あ、いい人、あ、いやいい店長だと思います。

澤井 だから、大丈夫だって。

飯島は手をどかそうと肩を揺らす。肩を撫でる澤井。

澤井 本社で僕の秘書なんかやつてもらってもいいし。
飯島 はあ、あの

肩にかかった手を外し、10センチほど上手側に移動する。

飯島 すごくいい店長だと思います。
澤井 は！

急に大声を出す澤井。

澤井 いや、この成績じゃあ、ダメ店長やろ！
飯島 でも・・・。

澤井 でもやない、だからこんな二年そこでそこで撤退なんや。
飯島 そんな、・・・頑張ってたし・・・。

澤井は嫉妬で飯島を睨む。

飯島 え、いや、ああ、・・・。

澤井 なんなん？恋人か！
飯島 あ、・・・はあ。

下を向く飯島。

澤井 そんな応援せんでええわ。あんなやつ！

飯島 でも優しいですし、ちゃんと店のこともいろいろと・・・。
澤井 やけに肩持つねえ。

飯島 いえ。

川を見て少し挙動不審に。

飯島 まあその、優柔不断なところはあるかな・・・、と。
澤井 お、いいね、そういうの、そういうの。

にじり寄り、再び肩に手をかけようとす。

澤井 いいよ、本社に採用しよう。

飯島は一瞬目を見開き、短く逡巡する。

飯島 いや、

小さい声で。だが、澤井の手は避けて立ち上がる。

飯島 あ、私、派遣ですし……。

澤井 え、……でも、じゃあなんでこれ、君が？

不思議な顔で飯島は紙を飯島の胸につきつける。

飯島 いや、あの、店長が行けって。

澤井 へ？……怪しいな。

飯島 あの、店長嫌われてるんです。エロテンとかって。だから私しか……。

澤井 は？いや、じゃあ君は？

飯島、店の方に足早に去る。エプロン姿の黒辺がネクタイを締め直しながら出てくる。シャツの腕まくりをしているが左手の方はだらんとなっている。一瞬目を合わせた二人、飯島はつま先を見つめてさらに足を早める。

黒辺は澤井の前に立つ。右肩が下がり、つま先を見つめている。

澤井はファイルケースをちらっと見る。

澤井 ないよ。

澤井はファイルを黒辺に渡すそぶりを見せたので黒辺は手を出す。その出した手をファイルで叩く澤井。

黒辺 イつ。

黒辺は痛いと言い切らないで我慢する。

澤井 ほんまに！

黒辺を睨みつける澤井。

黒辺 すみません！

澤井 数字！

足をドン、っとふみ鳴らす澤井。

澤井 この！

ファイルを手で叩く。

黒辺 すんません・・・。

頭を下げる黒辺。

澤井 横領でもしとったんちやうか？

黒辺 とんでもない。

澤井 “とんでもない”

澤井は黒辺のモノマネを嫌味ったらしくやる。黒辺は自分の膝あたりを見て黙り込む。

澤井 そりやそうや。こんな売上では、横領もしようがないわ！

澤井は黒辺にファイルを投げつける。

黒辺 はあ、すみません。

黒辺はファイルを拾い上げ、土下座のような格好に。澤井のモノマネがまた始まる。

澤井 “すみません！” って「反省だけなら猿でも出来る」ってな。

じっとりと黒辺を見る澤井。顔が緩み、

澤井 はは。心配すんな。本社に戻ってポジションあるって。

動かない黒辺。

澤井 社長は「しばらく、倉庫番やらしたれ」やって。

澤井は笑いを堪えられない様子。黒辺は下を向いたまま、

黒辺 は。

澤井 優しいなあ、社長。普通クビやで。奥様のおかげさまで首の皮一枚つな
がつとんな。あかんで普通。

黒辺 は、・・・い。

黒辺の顔が少し上がる。

澤井 まったく優柔不断で、ダメダメで、ひよろひよろやのに。

黒辺の顔がさらに上がる。ブツブツ言っている。

黒辺 私の子供はあなたより偉くなる。

澤井 は？なんて、・・・聞こえへんわ！お前本社でなんて呼ばれてるか知っ
てるか？“マスコ”！マスオさんですらない。ひよろひよろしやがっ
て。徳島じゃ“エロテン”だってな？いっちよまえにセクハラとか。パワ
ハラとかしてんのか？ばっかじゃねえの。“エロテン”じゃなくて“ヒ
ョロテン”じゃねえの・・・。

黒辺 私の子供はあなたより偉くなる！

立ち上がる黒辺。

澤井 は？

澤井は鳩が豆鉄砲食らったような顔をする。

黒辺 お前はコスコスかばん持ちでおべっかばーつか使って偉くなっただけ。
うちの会社は血が全て。将来絶対うちの息子がお前をこき使う！

黒辺にメールの着信がある。メールを見る。

黒辺 経理の飯島くんが澤井常務にセクハラされたって！訴えられるぞ、お前。

高笑いする黒辺。不思議な顔をする澤井。合点がいき、

澤井 お前ら、出来てるな。派遣の子になんでこんな重要書類持たすんやろって思ったけど。俺の機嫌取りに可愛い子寄越したんかな、と思ったけど。

黒辺から表情が抜けている。

黒辺 いや、それは……、それは……ない。

はげしく首を振る黒辺。

澤井 黒辺店長不倫！

叫ぶ澤井。元の格好に戻る黒辺。

澤井 ありえへんな。奥さんおんのに。悪い奴やなー。

澤井は立ち上がり、悠々と去っていく。立ち止まり、黒辺を一瞬チラリと見て。

澤井 ないわ。

澤井は携帯電話を手に中に足早に去っていく。

* * *

8 PM 18:00

仲良し従業員が二人、ベンチに腰掛けようとしている。

典子 さつきから様子が違う。何かあった？

佳代 実はさつき店内で珍しい人に会ったのよ。

典子 珍しい人に？

佳代 うん。昔、一日だけのデートをした相手。ここ三十年ずっと会って話したいと思ってた人。カゴを提げて買物してたわ。

典子 へえー。そんな人に会ったの？でどうだった、ちゃんとしゃべった？

佳代 ううん。頭下げただけ。

典子 何でえー。もういないの？その人。

佳代 いないと思う。やっと会えたんだけどねえ。

典子 バカねえ。追っかけなよ。電話番号でも渡しなよ。

佳代 もう帰っちゃったよ…。咄嗟には何もできないもんだね。

典子 ましてや最終日のこんな忙しい日だもんね。残念残念。本当は後でゆつくりと聞きたいところなんだけど、その一日だけのデートって興味あるなあ。どうして一日だけ？一体どこ行っただけ？

佳代 橘湾と眉山。黄色い車だった。

典子 どうしてその日で終わったの？

佳代 帰り、私怒ったんよ。

典子 えっ？好きだったんでしょ。

佳代 うん。でも取り返しのつかないことってあるんだね。

典子 それは怒らせたほうの彼のセリフでしょ。

佳代 いや、やっぱり怒った私が悪かったんよ。その後の彼には取り付く島もなかった。そしてそのまま三十年。

典子 へえー。それでどんな感じになった。その彼？

佳代 一寸疲れた感じだったけど相変わらずカッコよかった。

典子 今でも忘れてないんだ。

佳代 そういうわけでもないんだけど…。ああーやっぱり死ぬ迄にはも一度会いたい。次会った時ははつきり言うわ。一度話がしたいと。

典子 そうか。“命短し恋せよ乙女”だね。いやゴメン飛躍しすぎか。

佳代 “命短し思いは残すな”かな。さあ今日ももう少し。もうひと頑張りでいよいよ終わり。戻りましょうか

佳代、典子に先立って二人店に戻る。

* * *

9 PM 19:00

ベンチに座っている飯島。そこへ林がやってくる。

林 おお。お疲れさん。

飯島 あれ、もう終わりですか？

林 まだあるけど、一服しよ思てな。そっちはもう終わりやろ？

飯島 はい。九時まででしたよね。確か。

林 ああ。エロテンはな。

飯島 え？

林 社員は八時。

飯島 (慌てて)あ、ああ、そうなんですか。

林 エロ：エビ天やんな。それ。

飯島 はい。

林 飯の上にエビ天はないわ。

飯島 ありますよ。ふつうに。

林 ない。

飯島 ほら、天井とかあるじゃないですか。

林 そもそも天ぶら嫌いやからな、わし。

飯島 えっ。何で？

林 だってまじいやん。

飯島 でも上手いですよね。作るの。

林 そんなん、やってたらできるやろ。

飯島 だったら、なんでできないんですか。あれは。

林 何が。

飯島 とくしまロール。

林 あれ巻けるようになってるやん。

飯島 できてないですよ。全然。

林 結構腰入るようになったやんか。

飯島 まだです。まだ、もっと。こう、こうやって。(太巻きを巻くような動きをする)

林 (動きを止めるように)あー。もうええわ。どうせもうやらんやろ。

黙り込む飯島。

林 そういや、あんた確か大学真ん中やったか？
飯島 いや、もう4年ですネ。
林 ほお。やったらもう決まっとんな。次んどこ。
飯島 はい。
林 どこ？
飯島 東京です。
林 また遠いなあ。
飯島 まあ地元なんです。
林 ほーん。東京っていうたらなんとかランドやな。
飯島 千葉ですネ。
林 千葉？でも付いてたよな？名前に。
飯島 あのあれです。なんていうかな。まあ、大阪のアメリカ村みたいなもんです。
林 なるほど。
飯島 林さんはどうなんですか。
林 次？
飯島 はい。
林 決まってるわ。まだ。
飯島 入って四か月ってきついですよね。
林 いや、六か月や。
飯島 そういうことは覚えてるんですね。
林 一言余計や。
飯島 (笑いながら)すみません。
林 また歳が歳やけん見つからんよ。
飯島 大変ですね。
林 はあ。なんで閉店するんやろな。
飯島 さあ。
林 ほとんどエロテンのせいやろな。
飯島 そうですかね。
林 むしろあいつ以外の理由が見つからへん。はあ、むかつくわ。なあ。
飯島、無言。

林 なあ。むかつくやろ？

飯島、無言。

林 まあ。あんたにとっちゃいい機会なんやないか？
飯島 え？
林 足洗うのに。

間。

林 あんた、エロテンと不倫しとったやろ。
飯島 何で…。
林 何でも何もわかりやすすぎるわ、あんたら。隠しきれと思っとなんか。

俯く飯島。

林 足洗うんやったらな、しゃんとしい。前見てみいや。ほれ。

川を見る飯島。

飯島 ……。
林 俺でよかったら、ほら、相談にのるけん。
飯島 そうですよね。
林 え？
飯島 いや…：はい。

飯島は途端に明るいトーンで、

飯島 今日は多いですね？
林 は？
飯島 水の量、川。
林 ああ…：雨降ったけんな。
飯島 流れろ。
林 ん？
飯島 流れろ、全て。
林 ……。
飯島 流れろ、流れろ、流れろ、流れろ！
林 どうした？

飯島 ……流れる……。

飯島は後ろを振り返り、

飯島 バイバイ……淀川マート。
林 ああ……。

林も一緒に閉まりゆく店の建物を見る。

後、数時間で全ては終わって行く。

新町川には水が流れ……それは元の水にあらず。

おしまい。